

日露戦役従軍日誌にみる凱旋帰国

元新発田駐屯地援護室 佐藤 和敏

【最終回】は明治38年3月、奉天を占領した後、9月の休戦調印から凱旋帰国までの様子です。

六月十六日晴天、午前七時より中隊の半数は沙寧堡に師団所在地へ芝居見物、執代は油屋オコンにして、役者は尾上羽三郎・市川駒蔵にしてまことに上手且つは、衣装その他諸道具は皆内地より取り寄せたることなれば、見物人は何れも舌を巻かざるはなし、当日炎暑甚だしく、見物は山なし、実に愉快を極め午後八時帰営す。

六月十七日晴天、午前七時三十分より中隊残り半数は舎に休み、当日谷山聯隊長は旅団長に任ぜられ、近衛第二旅団長を命ぜられ。

十八日晴天にして炎暑なり。午前七時三十分の整列、方家屯東北方に集合し谷山旅団長の別れ旁々難し有り。お言葉頂戴しこれより小林少佐の奉巻あり、終わりにて執銃帯剣にして練兵場に集合し分隊・小隊教練及び分列式、同十時四十分解。午後五時より大隊本部衛兵に服務、当夜聯隊長（水島聯隊長）の宴会ありて盛大なり。

十九日晴天、午前八時頃谷山閣下出発に成り将校・士下見送り。

七月二十八日雨天、午前八時半の整列、分隊教練及び射撃の動作。十時解散、午後一時より薪取りに服務、午後三時帰営。当日情報に依れば、樺太島全部我がものとす。との通報あり。

八月十一日曇天、午前八時三十分の整列、敵情偵察のため我が聯隊一個聯隊・砲兵一個中隊、騎兵一個中隊・工兵一個小隊、四聯隊は四個小隊、三十聯隊一個中隊、我が十六聯隊長水島大佐の指揮を受け水島支隊となり、十一日午前八時三十分我が宿営地、方家屯を出発し午後三時金家溝に着し其の日行軍約四里、その夜は家屋はなし、谷間において露營致し、同十時三十分同所を出発し翌十二日午前二時、我が前哨線に着し我が第十二中隊は砲兵の援護、第十一中隊は神樹東方高地右側の援護、第三十聯隊一個中隊と第四聯隊の四個小隊は左側の援護、我が支隊神樹西方高地に至りし時、我が騎兵斥候扣河北方高地に向かって前進するや、敵と衝突致し、これより我が支隊は進んで、敵の高地を占領し遼夫嶺付近に敵の歩騎九百、我が支隊に撃退せられ午後三時其の高地を見上げ金家溝に向かって前進し、午後八時三十分金家溝に到着し露營す。其の日行軍約七里。

十三日晴天、午前三時三十分同地を出発、我が宿営地方家屯に向かって前進、午前十一時我が宿営地に帰営す。

九月一日雨天、正午我が第三大隊は第三十聯隊と前哨交代し午後一時、金在子溝を発し我が宿営地方家屯に向けて前進致し、午後六時宿営地に着く、其の日各人に酒一合、中蒲原郡村松町字浦寺、坂内ムメ様より慰問袋一包寄贈致され、その外手ぬぐい一本・絵葉書三枚・巾着一包寄贈さる。

九月五日午後八時情報、九月二日、ロイテツール電報に依れば講和大使は正式に休戦の条約に謂予せり。其の後平和に関し、隊は遊動せり、又十五条の内五カ条を脱可せりと通報有りたり。

※十月・十一月は凱旋の準備のため転載略

部隊は教練、射撃訓練等を実施しつつ帰国命令を待っています。この二ヶ月間は、特に燃料とする薪取りの記述を多く目にします。

十二月一日晴天、午前武器被服手入、午後休み。

二日晴天、午前武器被服の手入検査、午後健康診断とす。各人に酒一合、煙草二十本、甘味三十匁加給せらる。

三日晴天、中隊は休み。

四日晴天、休み、各人に付き酒一合、煙草二十本、甘味三十匁加給せらる。

十二月五日晴天、凱旋出発準備とす。

六日晴天、午前七時三十分、宿営地出発、清河付近に整列同八時当地出発、五家子に昼食午後四時七分、半拉山子に着宿営す。

七日晴天、午前八時四十分、当地を出発午後四時金家塞に着き当初に宿営す。

八日降雨、午後二時十分熊官屯に着く、当地に宿営す。

九日晴天、当地に滞在、同日午後八時当地を出発、鉄嶺に向かって行軍。正午十二時鉄嶺弾薬線に到着し、これより各列車毎に適當の使役をもって乗車の準備をなし、終わりにて休憩場に入りて各人に付き甘酒二合・煙草四十本加給せらる。

十日晴天、午前二時発車致し同三時鉄嶺本停車場にて、陛下の万歳を三唱し盛大に発車し、午前八時二分奉天に着し食堂に入り朝食致し、一時間二十分の休憩とす。同九時半、同地を発車し同日午後二時五分遼陽に着し昼食、一時間五分の停車。同三時二十五分当地を発車致し、同停車場に日本基督教育青年会同盟軍隊より、絵葉書寄贈致され午後九時三分大后橋に着し夕食、一時間余の休憩。十時四分に当停車場を發し、同停車場に愛国婦人会より煙草及び甘味干芋の寄贈あり。同夜十一時半、蓋平に着し甘酒二合給養せらる。

同十二時二十分発車し同十一日降雪、午前七時九分〇房店に着し朝食、五十分の休憩。同八時三十分発車し同十時五分、北三十里堡に着し堅パン三十匁目給食、同十一時三十分発車し午後二時二十分に金州城に着し昼食致し、同三時十七分発車し午後四時大連灣に着し、停車場に甘酒二合給養せらる。大連新兵舎に宿營し、一家に付き一個大隊とす。

十二日晴天、同所に滞在、大連を散歩す。

十三日晴天、午前七時十五分出発十一時第三多門丸に乗込み、正午大連を發し十四・十五・十六・十七日午前二時三十分、門司に着。

当所に停泊致し七時同所を發し十八日午前八時三十分似之島に着し、檢疫を受け十二時二十五分宇品上陸。午後二時広島市中島新町木本末松様方に宿營致し、十九日・二十日・二十一日、三日間同地に滞在。

二十二日晴天、午前六時広島市中島新町、木本末吉様方を發し停車場に向かつて行軍。午前七時停車場に着し、午前九時十分広島市停車場を發車し午後一時三十分糸崎に着し昼食し、午後四時四十六分岡山に着し夕食し、二十三日晴天、午前三時五十分大阪に着し朝食とす。午前七時京都に着し午前十一時米原二着し昼食し午後三時十分名古屋に着く、飯屋に入り酒一合寄贈せらる。午後九時浜松に着し夕食し。

二十四日晴天午前五時三十分沼津に着し朝食。午前十一時大船に着し昼食とす。横浜市大森婦人会より慰問状を賜り、午後二時三十分東京新宿に着し愛国婦人会より地図・菓子一袋寄贈せらる。午後五時三十分大宮に着、ハンカチーフ・煙草一箇・菓子寄贈せらる。午後九時高崎に着、愛国婦人会より煙草一箇寄贈せらる。

二十五日晴天午前八時、長野に着し朝食し愛国婦人会より菓子寄贈せらる。午前九時五十五分直江津に着、昼食し午後六時新津に着し宿泊す。

二十六日午前六時、新津町を發し水原町小学校に三十分休憩し、午後一時天王村に着し昼食とす。午後二時天王村を發し、午後三時新發田町に着し、第九中隊の兵舎に入り。

二十七日午前九時三十分の整列、招魂祭に参拝式を執行せらる。

二十八日午前九時、屯營を發し除隊とす。

明治三十八年十二月二十八日

第二師團歩兵第十六聯隊第九中隊

田中勝藏 征露日誌